



JAPAN REGION

Vol. 9, No. 4

July 1991

“Learning

with Joy,

Doing

with Pleasure”

識

る
情

じ

み

目 次

Contents

I T C公式訪問者メッセージ	Message from ITC Official Visitor	1
第9回日本リージョン大会基調演説	Region President's Keynote Address	2
I T C会長メッセージ	ITC President's Message	4
日本リージョン年次報告	Japan Region Annual Report	6
I T C日本事務局年次報告	ITC Japan Office Annual Report	7
委員会年間活動報告	Committee Reports	8
日本リージョンを考える特別委員会	Special Committee for Japan Region	14
マスターマニュアルの翻訳を終えて	From Master Manual Translation Committee	15
日本リージョン会則・常規	From Bylaws & Resolution Committee	16
I T C議会議法規役員メッセージ	Message from ITC Parliamentarian	19
I T C本部への質問について	On Questions to ITC Head Office	19
日本リージョンスピーチコンテスト	Speech Contest Winners' Speeches	20
I T Cインフォメーション	ITC Information	23
リージョン大会写真集	9th Region Conference (Photos)	24
ブーケ・ド・カウンスル	Bouquet de Councils	26
表 彰	Awards	27
日本リージョン第10期選出役員	Japan Region Officers	27
謝礼決議	Courtesy Resolution	28
大会コーディネーター謝辞	Message from Conference Coordinator	28
事務局こぼれ話	From Japan Office	29
おめでとうございます。 〈ぎふクラブ・千種クラブ・琵琶湖クラブ・葦崎クラブ〉	Congratulations!	30
“内容の充実” — 私のクラブでは	How to “Enrich the Contents”—in My Club	32
ニュース	News	35
編集後記	Editorial Note	36

カウンスル会長の年次報告はリージョン大会プログラムに掲載されています。



ITC書記-会計 ルビー・ムーン

Ruby Moon

ITC Secretary-Treasurer

My visit to the Japan Region Conference has given me a great pleasure and delight. I have been honoured to represent the ITC Board of Directors.

Members have welcomed me warmly and I thank them for the hospitality shown to me. Conferences are a time to renew friendships and I was happy to meet many members that I remembered from my visit in 1989.

The new term is about to start. There are plans to make and decisions to be taken. Plans need the energy of the members to be put into practice. Enthusiasm and cooperation together will achieve goals.

My best wishes go to the members of the Japan Region for a successful 1991-1992 term.

Ruby Moon

日本リージョン大会に出席出来まして非常にうれしく、また、喜ばしく思っております。光栄にもITC役員会を代表して参加させて頂きました。

会員の皆様方にあたたかく歓迎して頂き、そのご好意に感謝いたしております。大会というものは、友情をあたためる機会でもありましょう。私も1989年に訪問させて頂きました時にお会いした多くの方々と再会できうれしく思いました。

新しい年度が始まろうとしております。いろいろな計画もたてないといけませんし、決定しなければならぬこともあります。計画をたて実行にうつすには、会員の皆様の力が必要です。熱意と協力が相まってこそ目標に達することができるでしょう。

日本リージョンの皆様にとり、1991-1992年度が実り多い一年でありますように。

日本での日々

6/8(土)20:10	大阪国際空港到着	6/15(土)12:00	歓迎会-広瀬会長宅、阪神クラブ主催
9(日)	京都友禅会館見学		活け花のデモンストレーション
10(月)	京都観光八瀬大原		お茶のお点前なども
16:00	宝塚ホテル着	16:00	摩耶山ドライブ
11(火)	RMT・CMT	16(日)	日曜礼拝
12(水)	リージョン大会第1日	13:00	国際オープンフォーラム
13(木)	リージョン大会第2日	15:30	
14(金)	宝塚歌劇、清荒神	17(月)15:05	大阪国際空港から帰国
	コープマーケット見学		(オーストラリア)



一花一葉心あり

日本リージョン会長 広瀬 忠子

6月は紫陽花の美しい季節です。晴れた日も美しいですが雨にうたれた風情も一際さえざえときれいです。小さな花が集まって大きな形を作っていますが、その小さな花の一つひとつの部分が大切な役割を果たしており、恰も大きな組織の中で一人ひとりがどのように存在するかを教えているように思えます。

同じ雨風のもとに育っていても、紫陽花や牡丹は大きく華やかであり、すみれやたんぽぽは小さく地味です。しかし人々は大きな花を賛美すると共に小さな野の花も愛さずにはいられません。そこで今大会のテーマを「一花一葉心あり」としましたのは、牡丹のような、又すみれのような一人ひとりの心をここに集め、素晴らしい大会に盛り上げたいと願ったからです。

5月のゴールデンウィークにITC議会法規役員のマクレランド様が来日されました。丁度16年前の国際婦人年にITC会長として日本へ公式訪問された当時は、僅か3つのクラブでようやく1つのカウンスルが出来たばかりの時点で、カウンスル例会はお客様を含めて40名程でしたが、今や62クラブとなり8カウンスル、そして1,500名をはるかに越えるメンバーを有し、大会もこのように盛大に行われることが出来る世界最大のリージョンへと短期間に発展してきました。

今までは主婦の手作りで問題のなかったことでも、急速な組織の増大と共にひずみが生じ、そのひずみの調整や会計の一元化など多くの問題の一つひとつこの一年、役員は一丸となって取り組んで参りました。又言葉の違いによる会則の解釈にも疑問点を抱えているときに、マクレランド様を迎えて多くの会員が沢山のことを教えて頂けたことは私達にとって、今年度の最も大きな識の喜びとなりました。

ご滞在中一番私の心に残ったのは「会則の中にメンバーがいるのではなく、メンバーを守る為の会則である。常に礼儀をもって守られなければならない」と言われた言葉です。礼儀は優しさであり、相手への思いやりであり、それらが心の豊かさとなるものだと思います。

樹齢を重ねた大きな木を見上げてみますと、若い梢と古い幹とが重なり合って示すその爽やかさ、そして大地にしっかり根を張っているたくましさ、又枝には小鳥も来てうたい、木陰には人を憩わせる大らかさ、一花一葉の心を大切にした大樹のように、家庭で又地域社会においても、ITCの訓練で得た喜びを行いを通じて、大いに存在感のある人間形成に役立たせて頂きたいものと考え、この一年を省みて私の所信を述べさせて頂きました。

Region President's Keynote Address

Tadako Hirose, Japan Region President

June is when the hydrangea is at its best. Its beauty under the sun is only surpassed by the poetic grace that unfolds when wetted by spring showers. The large flower is actually a collection of tiny blossoms, and each of these tiny blooms has a function. It is perhaps a parable, depicting the bearing of each individual within a large organization.

As there are the extravagant hydrangeas and peonies, there are the small and simple dandelions and violets. Just as one admires the larger blooms, one cannot but love the small blossoms of the meadows. Thus have I chosen the theme for this year's conference. "Tenderness dwells in even the tiniest of flowers," in hopes that the love and tenderness of each and every 'peony' and 'violet', gather here for a most successful conference.

We were fortunate to have ITC Parliamentarian, Thelma McClelland visit us during the 'golden week' holidays in May. Her previous visit as ITC President was 16 years ago, during the UN Women's Year. At that time, there were only 3 clubs with just the beginnings of a Council. Including guests, 40 people attended the Council meeting. Now, not only do we have conferences on such grand scales, but, with 8 councils, 61 clubs (including the 2 clubs to be chartered in July), and over 1,500 members, we have become the largest and fastest growing region in the world.

Along with the swift expansion of our region, we have had our problems. No longer can our simple homespun ways carry us through. The board of officers have worked hard in resolving these problems, adjusting the old to the new, centralizing the treasury accounts. Having had Thelma McClelland advise us and answer our questions when we were confused by the interpretation of the bylaws, was the most rewarding thing of all.

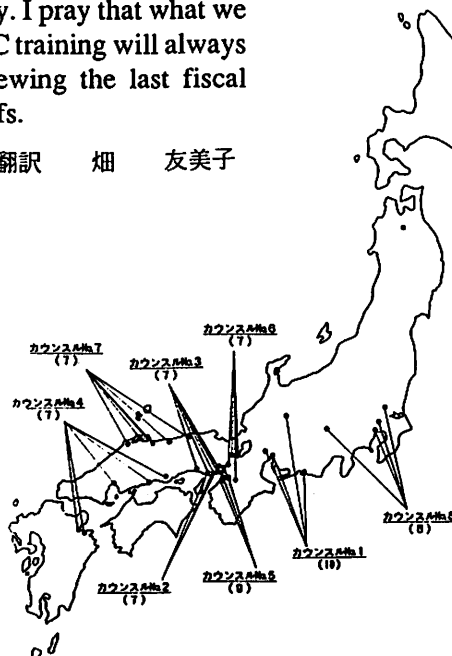
The most memorable of her comments was, that "the bylaws are not to bind the members, but to protect them. They must be followed with respect." Respect is kindness and tenderness to others, and so thus, fulfillment of one's own heart.

A well grown tree has a sturdy trunk and roots stretching deep into the earth. The young branches spread their foliage to the skies. Birds flock to the limbs and fill the air with song, the shade is inviting and cool. May the tenderness of the trees, and of the flowers be ours; in our homes and in society. I pray that what we have gained through ITC training will always be with us. Upon reviewing the last fiscal year, I present my beliefs.

翻訳 畑 友美子

カウンスル分布図

●はクラブ所在都市
()はクラブ数



1991年6月末現在
原案. 広報委員会



効果的な意思の疎通を図ること

I T C 国際会長 ジェラルディン・ライトフット

インターナショナル・トレーニング・イン・コミュニケーション — それは日常的な展望から遥かに遠いものを目指しそれにチャレンジする非常に格調高い名前です。

インターナショナルとは文字通り世界の国々、文化、言語を意味します。トレーニングとは端的にいて、潜在能力を開発し、自己を確立し、資格を有するように教育し、熟練し、教育するための知識を分け与えることを意味します。

コミュニケーションとは全く他のことです。効果的なコミュニケーションとは非常に到達の難しいことです。この主題に関する権威者たちの見解を参考に私の観察を加えて、効果的なコミュニケーションについて私の解釈を述べたいと思います。

効果的なコミュニケーションとは物の放つ分光を包み込み、色々な成分を埋め込む分器語句のよなものです。コミュニケーションを研究することは人間の習性を研究することに他なりません。我々の日常生活における全ての行動は一種のコミュニケーションであり、効果的なコミュニケーションを問題にするならば色々な要素を考慮に入れなければなりません。「意思の伝達は無い」というようなことは有り得ないということを理解してください。例え沈黙さえも立派なコミュニケーションなのです。シェークスピアも述べているように「時を得た沈黙はより雄弁なスピーチ」なのです。

効果的なコミュニケーションについて考えるとき、態度、イメージ、理解、上手に聴き話す能力などの要因がその過程で考慮されねばなりません。

コミュニケーションを成功させるためには良い聴き取りが不可欠です。聴くことは話すことと同じくらい大切なコミュニケーションの過程といえます。私達には二つの耳がありますが口は一つしかありません。だから私達は聴くことに二倍の時間を費やすべきだと言われています。また聴くことは話すことより二倍難しいと言う人もいます。

上手に話すことはとても大切なことです。私達は明瞭に手短かにそして説得力ある話し方をすることの重要性を認識しなければなりません。

よく知られているコマーシャルの文句に「第一印象でバッチリ決めよう」というのがあります。第一印象が決め手なのです。「本は装丁で決まる」という言葉を貴方は多分聞いたりご自分でもお使いになったことでしょう。私達は知らず知らずの間に物事に対してイメージを作っています。そしてそのイメージは他の人が私達をどの様に見ているか、そして自分が自分自身に抱いているイメージ — そのイメージは私達は疑いもなく絶対に人生の成功者になるというイメージ — の二種類であることを頭に入れて置くことが大切です。自分自身に抱くイメージは我々の人生に重要な影響を及ぼします。そしてそのイメージが貧弱だと効果的なコミュニケーションを確立する妨げになります。

聞き手と話し手双方の態度は効果的なコミュニケーションを行うに当たって非常に重要な役割を

演じますし、意思の伝達に対して払われた努力の結果には大きな心を動かす力があります。態度は人類の言語の中で最も重要なことばだと言えます。私達は自分の態度の支配者であるか、或いはその被害者となるかのどちらかです。人間の態度の変化は常に理解を通して表れてきます。そして理解は効果的なコミュニケーションが重要な要素になります。

人々を理解するためには先ず最初に、我々は皆異なった存在であり、異なった環境で行動し反応しているということを認めることを私は要望します。成功を求める人は、人々と共に歩き、人々に対し誠実な思慮深い理解を持つことを学ばねばなりません。

人間関係には二人の間であれ、より多くの人々の間であれ何処でも理解、無理解、誤解が生じることがあるでしょう。人々と仲良くやっていくにはお互いの理解が不可欠です。理解とは相手の悪い点を探すのではなく、良い点を見つけることを意味します。誰でも良い所があります、そして理解のある人とはその良い点を見つけ伸ばしてあげる人です。

人はそれぞれユニークで、誰と話す時でも教育や文化や環境や人生の背景が違うことを認識していなければならないことを覚えておいて下さい。

理解は価値のある特性です。理解は広い範囲の認識と知覚の対象を網羅しています。それは人々に対する我々の態度や感じ方を含んでいます。それは他の人達を偏見のない、権利などに侵害されない心で、人生における我々の状態や立場が全く異なっている故に私達はこの難しい現実をしっかりと見詰めることに関わらざるをえないのです。理解するとは相手の身になって、他の人の経験を共有しその感じを知ることを意味します。他の人の目を通して人生を、そしてその問題を見詰めることが出来るそんな存在になることです。

そうです。効果的なコミュニケーションは多くの要素から成り立っています。貴方のコミュニケーションはどんなに効果的か自分でテストしてみてください。

* 自分は良く聴いているだろうか。私は良い聞き手だろうか。

* 自信を持って話しているだろうか。私ははっきり明瞭に発声しているだろうか。

* プロのイメージを醸し出しているだろうか。

* 私の自分自身に抱いているイメージは明るく輝いているだろうか。

* 他の人達と私はどんな態度で接しているだろうか。

* 私は理解のある感情移入し易い人間だろうか。私は自分と異なった人達を全てその人格を認めて扱っているだろうか。

もしこれらの質問の答えが肯定的ならば、貴方は効果的にコミュニケーションをしているといえます。もしある部分に改良が必要ならば、今日から必要な改善に着手してください。そのことは貴方の回りの世界と貴方自身を変えることでしょう。変革をもたらしましょう。

Choose To Make That Difference.

翻訳 土居 和子(イースト神戸クラブ)

ITCコミュニケーター Mar./Apr.1991 Vol.6/No.4 P.1 掲載

書記 星野佐登

日本リージョン第9期役員会は会則と役員会方針に基づき、広瀬会長のテーマ「識る喜び 行う楽しみ」にそって、今期の目標“内容の充実”を計り、“社会参加”することによって、地域とのつながりを持つように努めた。

役員会 合計10回召集され、前半は前期から引き継がれた問題の解決を真剣に話し合い、後半は大会のプログラムの検討、会則修正の審議方法等大会に向かって各役員各自の立場から意見の交換をし、準備を進めた。各カウンスルへは2回公式訪問を行った。

カウンスル分割 カウンスルNo.1は今期から分割しNo.1とNo.8となり、日本リージョンに所属するカウンスル数は8となった。

資格認証委員会 1990年5月20日から、1991年5月20日までの資格認証課程取得者は、コースⅠ、71名、コースⅡ、12名、コースⅢ、1名、コースⅣ、4名の合計88名で、日本語での受験と採点が可能となった。

増設委員会 堺東クラブが2月11日に、ぎふクラブが3月16日に認証され、リージョン会長によりカウンスルNo.5と、No.1にそれぞれ配属。またその後、琵琶湖クラブ、韭崎クラブ、千種クラブが認証され、日本リージョンに所属するクラブは62となった。

会員委員会 4月30日現在の日本リージョンの会員数の総合計は1,534名で、世界で一番大きいリージョンとなった。

広報委員会 新しい日本リージョン内のクラブ、カウンスルの分布図と「What is ITC?」の改訂版を作った。

日本リージョンを考える特別委員会 昨年に引き続きリージョンの分割等諸問題について検討を続けている。

RMT・CMT 1990年11月8日京都タワーホテルで行い、リージョン役員5名、リーダー4名を含め合計78名が参加し、各役員と議会法規役員、編集者、資格認証、会則・決議、増設、広報各委員長の研修を行った。また1991年6月11日宝塚ホテルにおいて、公式訪問者ルビー・ムーン ITC書記-会計を迎え、RMT・CMTを開催し、現役員、委員長、次期役員、委員長の研修を行った。これで今期RMTは合計4時間、CMTは合計8時間行ったことになる。

ITC日本事務局 発足して2年目を迎え、業務も軌道に乗りはじめた。マスターマニュアル翻訳特別委員会が任命され、マスターマニュアルの翻訳は完了して目下印刷中である。その他、教育資料の翻訳、出版も順調に進んでいる。

5月2日にセルマ・マクレランド ITC議会法規役員が来日され、名古屋での役員会、神戸でのオープンフォーラムにご参加頂き、議事運営手段について指導を受けた。



事務局長 新木 昌子

I T C 日本事務局が発足しましてから、今、その二年目の終わりを迎えることとなります。そして、この一年間事務局の各部門担当者の有能な指導のもとで、翻訳、出版、資料それに特別会計の業務を何の支障もなく、リージョン会員のニーズに応じることができました。

翻訳部門では委員長加藤啓子さんのもとで17名の登録翻訳者は、新しい教育資料9種類、改訂したものの9種類、I T C コミュニケーターの記事約30種類、及び10月と4月のオールクラブメーリングなどを、原本に忠実で且つ正確に翻訳されましたことを喜んで報告いたします。

今年はこのような通常の翻訳の他に、I T C 本部で教育マニュアルを改訂した、新しいマスターマニュアルの翻訳がありました。これにはマスターマニュアル翻訳特別委員会が任命されて、委員長の土居和子さんの適切な計画により、200ページにも及ぶ大変な仕事も予定通りに完了しました。今は印刷会社にその出版を依頼した段階で、皆様のお手元に届きますのは少し期間がかり来期になる予定です。この新しいマニュアルはとても読みやすい活字で、言葉遣いも分かりやすく、外見も美しく立派になります。どうぞご期待下さい。

出版の部門では委員長徳橋八重子さんが印刷会社と交渉したり、翻訳されたもののレイアウトや校正などに委員の方々と共に熱意を持って取り組みました。今年新たに出版した資料は、「クラブ教育 — 会計監査」「新入会員導入式」「語彙研究者の教え」「運営手段 — 対立を乗り越えて」「会員補充と保持」「ファッション解説」「ワークショップの様式」と「標準リージョン会則」の8種類、その他、教育資料の改訂版を9種類と再出版の7種類を取り扱いました。

資料部門は任命役員の杉山桂子さんが担当で、8カウンスルの委員の方々と密接な連絡を取りながら、主としてカウンスル例会のうちに資料の販売をしています。売上金額と在庫数の報告は毎月役員会に提出しています。今期の売上予算は250万円ですが、リージョン大会での販売も加算しますと予算額を上回る金額になると予想します。

特別会計は竹内宏子さんが事務局の経理と兼務して、いつも明確に几帳面に行っております。特に今期は、湾岸戦争のおりなどの為替の激しい変動にもかかわらず、昨年10月からのまま、1ドル・130円の一定のレートで取り扱いました。当然出ました赤字は繰越金で賄い、クラブに還元しました。会計報告は毎月リージョン会長と会計に提出しています。

事務員の澤登芙蓉さんは教育マニュアルの在庫管理と発送、その他の資料の梱包や発送など必要に応じて従事しています。

以上の業務はリージョン役員会の指示により承認を得て行ったものです。

担当者で大勢の協力者が誠意と熱意をもってその責任を果たして下さいましたおかげで、事務局長としてこの一年間無事に勤まりましたことを感謝いたします。

資格認証委員会

委員長 常田道子

5月20日現在の報告では、今年度の取得者数はあまり多いとはいえませんが(表1)、相当数のクラブがこの制度を理解されてきて、申請手続き中または課題消化不足などの理由により、来期は取得予定との報告を受けています。比較的新しいクラブが、ITC訓練の一環と受け止めて、前向きに意欲を示されているのは心強いことと思います。

英語が不得手なだけで、コースⅢのテストの受験をあきらめているメンバーのために、委員会は、ITC本部と交渉を試みました。今までは日本語で受験し、モニターに英語に翻訳して貰っていましたが、日本リージョンの資格認証委員長が採点する特例を認めるとの回答を、クライアント様から頂きました。具体的な手順については、今後詰めていく予定です。

これにより、コースⅢ取得の道が大きく開かれたことは、画期的な朗報ではないかと思えます。

(表 1) コース別取得者数 1990.5.20 ~ 1991.5.20

カウンスル	コース I	コース II	コース III	コース IV	合計
1	15	6	1	4	26
2	9				9
3	6				6
4	13				13
5	4				4
6		3			3
7	24	2			26
8		1			1
合計	71	12	1	4	88

(表 2) 年度別取得者総数 1987 ~ 1991

年 度	コース I	コース II	コース III	コース IV	合計
1987 ~ 1988	266	24	5		295
1988 ~ 1989	252	44	11	1	308
1989 ~ 1990	91	10	4		105
1990 ~ 1991	71	12	1	4	88
合計	680	90	21	5	796

(註) 合計数は、次又は次々年度の上部レベル取得者数を含むものです。

資格認証ニュース!!

コースⅢのテストが、日本語のみでも受けられることとなります。議事法をほんの少し勉強して、コースⅢに挑戦してみましょう。

会則・決議委員会

委員長 藤本博子

昨年度の大会審議のようすから考え、特に常規に修正が必要ではないかと一年を始めました。常規を全面的に改正することを試みて、9月の役員会に10項目にわたる常規の修正案を提出しましたが、手順について役員会の了解を得るに至らず、11月に例年通り2月1日締め切りで各クラブからの修正案提出を依頼しました。調整の結果38の修正案と7の決議案となり、60ちかいクラブが大会で審議されたわけです。11月にはカウンスルNo.2主催のリージョン会則の勉強会、4月にはカウンスルNo.3主催の修正案・決議案についての勉強会に参加させて頂き、色々なことを教えて頂きました。他の各カウンスルでも勉強会を催され、それぞれの所属クラブがリージョン会則と積極的に取り組まれたことを聞いております。ITC議会法規役員員の指導を仰ぐために何度か手紙のやり取りをし、実際に来ていただいて懇談をし、大会での儀礼的決議案の提出など私にとっては新しい知恵を次々に授かりました。大会の審議中にいくつかの宿題をもち帰りましたので、それについて回答ができるようまたしばらくの間勉強させて頂きます。

大会準備委員会

委員長 杉山満佐子

大会の一年余り前、1990年2月頃から活動を開始しました。会場となるホテルはホステスカウンスルを勤めるNo.3の地域内にしたいと考え、会長の希望もあって6月12、13日に宝塚ホテルと決定。

10月と4月に約60名の委員が出席の上、準備委員会を行いました。各委員会の任務、仕事の内容を検討、作業の進み具合を確認しあいました。

任期なかばで八木美恵子前委員長の健康上の理由で委員長が交替しました。

出席者680名と想定し予算をたて、この多人数に対応できる方法を各委員会で考えました。まず食事券は出席者に必要箇所を記入してもらおう。登録申し込みには委員会が準備した名簿に会員全員の氏名を記入の上必要箇所を書き込んでもらうこととし、会報2号に添付して頂きました。

又、名札は各自持参して頂くこととし、写真はスナップは写さないことにしました。更にキット委員会も個人別のワークショップ券や食事券、リボン等は封筒に入れ、キットの中は出席者全員が同じものとし、登録に関しても役員会の承認を得て、第1日、第2日と区別して登録するのを廃止し、大会期間中1回の登録で済むようにしました。

登録会計も、期日までの取り消しについては各派遣員宛に、また、晩餐会費については、3日前までの取り消し分まで、ともに、現金書留で返金いたしました。

以上の改善点が実行されたことによって当日700余名の出席にも拘らず、心配された登録、受付の混雑もなくスムーズに進行できました。

大会も9回目を迎え準備委員会の方も回を重ねる毎によく改善、整備されています上、前記の方法をとったことによって、運営面ではより効果的にゆとりをもって大会を終えることができたと思っています。

選挙委員会

委員長 須知繁子

日本リージョン次期役員及び指名委員の選挙は今大会において有資格59クラブ(内不在投票1)の派遣員によって行われた。

役員 各役職に対し各1名の候補者に投票が行われ全て当選必要票数の過半数を獲得した。

指名委員 各カウンスルからの8名の候補者に対し3名連記の投票が行われた。その結果、規則により再投票、再々投票を行うことになったが、なお1名について過半数を得るに至らず、この報

告を受けた議長は派遣員に諮り総意による次点者繰り上げを決定した。委員長は以上について報告した。

会長は次年度役員及び指名委員を以下のように発表した。

役員

次期会長 星野佐登(葵クラブ)
第一副会長 木下あつ子(大阪クラブ)
第二副会長 鶴飼恵津子(名古屋クラブ)
書記 佐山昌子(岡山クラブ)
会計 古澤由紀(浜松クラブ)

指名委員

須知繁子(カウンスル№1 名古屋クラブ)
松下えん(カウンスル№8 東京クラブ)
秋山美代子(カウンスル№3 芦屋クラブ)

増設委員会

委員長 古市愛子

各カウンスル増設委員会の報告が年間4回あり、それをまとめて、ITC増設委員長とリージョン会長に増設の活動を報告します。ITC増設委員長はその都度、全世界からの情報と、増設に必要と思われる新しい資料を知らせてきます。このようにして、ITC、リージョン、カウンスルのすべての増設委員は共に活動し意見を交換しあいます。

新しいクラブ作りという私達の目標を達成するため、おたがいに助けあっていきます。

その結果として、すでに今年度ITCから堺東クラブ、ぎふクラブ、琵琶湖クラブ、韭崎クラブ、千種クラブが認証されました。そしてまた、1クラブが三田地区に7月末までに誕生しようとしております。

新しい友達の輪が広がっていくかげには多くの方々の方々の努力があることを感謝いたします。

国際交流委員会

委員長 鈴木みつ子

国際交流委員会では1990年12月5日に第1回委員会を広瀬リージョン会長を囲んで開催しました。その節、1991年のワシントンD.C.におけるITC大会参加の旅行スケジュールも協議しましたが、湾岸戦争勃発、一時中断。平和が戻るや再び計画し各カウンスルに送りました。

5月9日、ITC議会議法役員セルマ・マクレランド様来洛のおりには数時間ご案内いたしました。また、リージョン大会公式訪問者のITC書記-会計ルビー・ムーン様は6月9日午後から京都にご滞在になり一泊、観光。委員はご案内の後、会場の宝塚ホテルにお送りいたしました。

会員委員会

第二副会長 小林 令

1,412名、57クラブでスタートした第9期日本リージョンは、各カウンスル共に会員数の順調な伸びを示し、今年2月と3月には「堺東」と「ぎふ」の2つの新設クラブをお迎えして1991年4月末日現在1,534名、59クラブを数える迄に発展いたしました。世界の28リージョンの中、会員数1,500を越えるのは日本リージョンだけで、クラブ数ではニュージーランドリージョンの86クラブには及びませんが、会員数では世界最大のリージョンとなりました。カウンスル別の会員数分布と今期の増加状況を次頁に示しました。

	会 員 数	期 首 比	ク ラ ブ 数	期 首 比	平均会員数 / クラ ブ
カ ウ ン ス ル № 1	243	+43	9	+1	27
カ ウ ン ス ル № 2	176	+12	7		25
カ ウ ン ス ル № 3	174	+9	7		25
カ ウ ン ス ル № 4	179	+5	7		26
カ ウ ン ス ル № 5	235	+34	9	+1	26
カ ウ ン ス ル № 6	168	+4	6		28
カ ウ ン ス ル № 7	197	+6	7		28
カ ウ ン ス ル № 8	162	+9	7		23
合 計	1534	+122	59	+2	26

1991. 4. 30. 現在

指 名 委 員 会

委員長 鈴 木 宏 子

第9回日本リージョン大会での役員就任式の後、90日間をふりかえって感無量でした。どのレベルでも指名委員会の仕事は大変ですが、リージョンレベルでは会則の資格に縛られ、活動も制限されています。各クラブに候補者の推薦を依頼し、多くの候補者が推薦されてくるのを祈るように待ちましたが、3月13日までに推薦を下したのは2クラブだけでした。それから委員会の活動が始まりました。大会60日前までに候補者名簿を各クラブへ送付しなければなりません。なんとか無事候補者名簿を各クラブへ送り終えた時、一人の方の辞退のニュースが届きました。それをクリアして間もなく、4月初旬からまた他の問題が出てきました。解決に40日ばかりかかり、5月20日付けで一人の候補者のご辞退を各クラブ宛知らせました。フロアからの推薦依頼もしましたが、もし候補者が無ければ、次の役員が決まるまで現役員に引き続きして頂かなくてはなりません。委員会の懸命の活動とメンバーの協力で、新しい候補者から指名の承諾を得た時、肩の荷がやっとりたのを感じました。ロバート議事規則をいらんで知恵をしばっての結果です。会則が修正され、次期はもう少し楽になるかと思えます。

プログラム・教育委員会

第一副会長 白 江 圭 頼 子

第1回委員会を1990年9月14日に開き、今期の方針・活動計画を立てて以来、1991年4月15日、ワークショップ申込締切日に合わせての人数確認や部屋割り作業まで、大会までに計4回の委員会を行い、大会冊子作成については別途4回の編集会議を持ちました。

当初、前年度からの申し送りやファイルから改善点について充分ディスカッションしましたので、滑り出してからは計画にそって委員会は熱意をもってチームワークよく機能し、途中突発的な事情にもよく対処し大会は効果的に運営できたと思っています。

これも委員会の提案が役員会でよく理解され、コーディネーターの協力を得て互いに密接に活動した故と思えます。

予算は据え置きの部分があり、大会の日数も持ち時間も据え置きという限られたワクの中で、年々会員数が増し、多様化しつつある会員のニーズ — 20年会員のこと、新会員のこと — に応えられる教育セッション、他のリージョンには見られない膨大な修正案を公正に且つ充分に審議するための時間の捻出、表紙も内容も濃い大会冊子、大会の目的を効果的にするアイデア等々。委員会はあらゆる知恵を惜しみなく結集させましたが、さて、一つのワークショップにも参加者の賛否はカラフルです。

ところで大会出席者は会員数の約半分。そして全員が同じワークショップに出ていないのですか

ら、出席なさった方は是非カウンスルやクラブに還元して頂きたいのです。

例えば I T C 公式訪問者のオープンフォーラムで得た新しい知識は口コミで拡げるのではなく、これも第 1 日目のワークショップを参考にして色々な形のエデュケーションに仕立て直して発表されるのもフィードバックの一つの方法と存じます。

どうぞこの大会が活かされ、“識る喜び 行う楽しみ”に発展いたしますように。

広 報 委 員 会

委員長 三 上 博 子

— あらゆる機会を捉えて I T C のお話をなさって下さい — とお願いしてから、実にたくさんの、例会やスピーチコンテストの記事の載った新聞などのコピーが、各カウンスルから送られて来ました。その中には、座談会や教育の載ったミニコミ誌もありました。ありがとうございました。

リージョン広報委員会としましては、「What is I T C ?」の中の数字を改訂して増刷し、I T C の組織図と、カウンスルの所在地域を示す地図、各カウンスルの所属クラブ表の 3 つをまとめたものを作成致しました。増設や会員勧誘にもお役に立て下されれば幸いです。

また、例会の進め方、その雰囲気伝えるビデオの作成を思い立ちましたが、時期が遅く、任期中に作成できませんでした。願わくは、次期広報委員会に引き継いで頂きたいと思っております。

スピーチコンテスト委員会

委員長 桑 原 美 紀 子

今年度のコンテストも無事終了いたしました。一般的な評価としては、日・英ともにスピーカーの技術が一段と向上しており、聞きごたえがあったと伺いました。

まず今年度も昨年につづいて、審査員は外部の方に依頼しました。理由としては客観的な評価を期待したことと、私達 I T C の活動を社会に広報したいとの希望があったからです。評価は非常に的確であり、コンテスト終了後も沢山のご意見を頂きました。特に、これだけの素晴らしいコンテストをしながら、なぜ社会に還元できる活動をしないのかとの質問は、心に残りました。一方“ I T C らしさ ” をもっと守るべきだとの意見もあったと耳にしました。“ I T C らしさ ” とは何を意味するのか、今後の課題として会員の皆さんと考えてゆきたいものです。いずれにしても、初めての大会運営への参加で、多くの勉強ができました。成果の活用を今後期待しながら、ご協力頂いた皆さまに感謝いたします。

翻 訳 委 員 会

委員長 加 藤 啓 子

1990 年 - 1991 年度 翻訳者登録数 26 名。内 9 名がマスターマニュアル翻訳特別委員会専属となり、翻訳部では 17 名の翻訳者で教育資料、コミュニケーター、オールクラブメーリングの 3 部門を分担いたしました。

◎教育資料部門は新版 9 冊の翻訳、種々の改訂のための翻訳の見直しを行い、I T C より出版されている未翻訳の教育資料を出来るだけ多く翻訳することに努めました。

◎コミュニケーター部門は昨年度同様、年 4 回のリージョン会報と共に発行されるコミュニケーター翻訳別冊に、リージョン会長の「楽しい記事も取り入れて……」とのご意向にそい、尚且つ、会員に役立つ記事を選び、翻訳いたしました。

◎11月と4月のオールクラブメーリングはクラブと I T C 本部を直接結ぶものであり、迅速さを要求されます。11月と5月の連休中に翻訳をしなければならない状況のもと、遅滞なく完了されました。

滞りなく、この報告が出来ますのは翻訳に携わって下さった皆様のご協力によるものです。

マスターマニュアル翻訳特別委員会

委員長 土居 和子

当委員会は1990年9月、広瀬忠子リージョン会長の要請によって下記の会員により結成されました。

新木昌子(名古屋クラブ)、泉谷智恵、スベンサー絢子、寺田めぐみ(以上イースト神戸クラブ) 加藤啓子(甲南クラブ)、藤原栄子(六甲クラブ)、難波久佳(ひろしまクラブ)、三枝瑤子(鳥取クラブ)、紫田ひさ、田中三千子(以上筑波クラブ)。

翻訳作業は、新しく書き下ろされた部分と、従来のものに補足、修正が加えられた部分とに分類され、10月に第1回目、1月中旬に第2回目の翻訳依頼が各委員になされ、3月中旬粗訳が完成しました。その後注意ぶかい監修が行われ、翻訳原稿は3月末、事務局を通じて印刷、出版の運びとなりました。

ライティングコンテスト特別委員会

委員長 鶴 飼 恵津子

I T Cではライティングコンテスト委員会が今期新設され、ウエストフォル委員長から日本リージョンの会員も参加するようにとの熱心なお薦めがありました。そこで、役員会で検討、下記の結論を出されました。

1) 国内で、日本語で行う場合 — “フィクション、ノンフィクションでは3,000語以内、詩では20行以上30行以内”の条件を日本語に適用するのは不可能である。したがって、今後に向けてルール作りから始めなくてはならない。

2) 英語でのコンテスト — 条件に叶ったふさわしいジャッジを行うのは難しいので、I T Cライティングコンテスト委員会へ郵送し、審査してもらう。

当委員会は、応募作品をまとめて送る役目を引き受けたものの、残念というか当然というか、その任務を遂行できませんでした。

I T C 基金委員会

委員長 盛 田 純 子

会員の皆様には、今期もI T C基金にご協力下さいまして、委員一同心から感謝申し上げます。

会員一般の寄付 1,081,700円

内訳	カウンスルNo 1	162,690円	カウンスルNo 5	188,900円
	カウンスルNo 2	103,800円	カウンスルNo 6	100,775円
	カウンスルNo 3	124,455円	カウンスルNo 7	154,380円
	カウンスルNo 4	129,380円	カウンスルNo 8	117,320円

インナーサークル 448,800円 (33名)

その他 45,150円

(ジーン・ジョイス様、八代ふゆ子様の追悼のため及び個人的なお祝い記念のため、1クラブと5名の方)

合 計 1,575,650円

これを郵便為替 11,230.09 ドルに替えて(1ドル=139.95円、手数料4,000円)、6月25日I T C本部に送金いたしましたので、ご了承下さい。

皆様方の尊いご寄付が、I T C本部において有効に使われて会員のためI T Cの発展のために役立ちますことを願いながら、ご報告申し上げます。

委員長 盛田純子

本年度会長より与えられたテーマは、「英語カウンスル」と「リージョンの分割」でした。委員会の任命が12月でしたので時間の不足もあり話し合いに終わった感がありますが、大体のまとめを申し上げます。

1. 英語カウンスルについて

まず、英語クラブからの要望があるかどうかを、現在英語クラブを含む4つのカウンスル会長にたずねました。その結果、個々の会員で要望される方はあるが、クラブ全体としての申し出はないとの返答を得ました。例えば、最も英語クラブの多い№8では、昨年カウンスルを分割する時に充分検討した結果、カウンスル例会は日本語で行うとの結論を出したので、現在は英語カウンスルをつくる動きはないとのことでした。

それを受けて委員会としては、現在の英語クラブ会員の英語力の差も考えると、会員の向上に役立つ質の高いカウンスル例会を持つことはまだ無理と思えるので、現段階では英語カウンスルをつくることは時期尚早であり、今後、英語クラブから要望があるまで待つという結論に達しました。

2. リージョン分割について

分割をすすめる理由として、事務の複雑化及び大会運営の困難があげられています。

1) 事務の複雑化 — 現在、各役員としては大きな問題でなく、主に事務局の仕事の増大につながっています。それ故、事務局の専業事務員（現在、週一回雇用。仕事のごく一部を受け持つ）に、会計・リージョンメール・資料の発送など、いわゆる事務的な仕事をなるべく多く託すことによって、事務局にかかわる会員の負担を少なくできるでしょう。

2) 大会運営の困難 — 大会自体の改良点を考えることにより、ある程度解決できるのではないのでしょうか。例えば

- ・会議は体育館や国際会議場など多くの人数を収容できるところにする。
- ・昼食・晩餐会ともに簡略にする
- ・大会を3日間とし出席者の分散を計ると共にプログラムに余裕を持たせる
- ・登録やホテル予約などの事務処理は代行業者にまかせ得る

以上の考え及び、分割の妥当な線を名古屋・東京圏と関西圏に引くとすると、現在名古屋以東にカウンスルがもう一つ足りないこともあり、もう少しこのままでも乗り切れるように思えます。

参考までに、オーストラリアのパシフィックリージョンは12カウンスル・71クラブ、ニュージーランドリージョンは14カウンスル・83クラブを含んでいます。

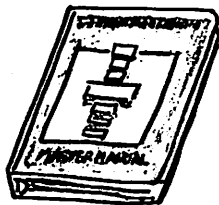
しかし、分割することによって

- ・交通距離の短縮による時間及び経費の節約
- ・リージョンの役職を経験するチャンスが早くなる
- ・大会運営が楽になりプログラムにも余裕ができる

等の利点を思えば、近い将来の分割に向かって準備を進めていくことは必要と考えます。なお、分割しても事務局は一つであり、これはITC本部からも通達されていますので申し添えます。

その他、日本リージョンとしての社会的活動、資料・翻訳・出版に関する件、大会費用などについても話し合いましたが、誌面の都合上省略いたします。

〔 委員 須知繁子（名古屋） 泉和子（阪神） 三宮晶子（阪神） 江藤万里子（関西）
早川住江（大阪） 〕



Y.I.

マスターマニュアル翻訳特別委員会委員長 土居 和子

美しいバインダーにしっかり綴じ込まれた青と赤、二色刷りの真新しいマニュアルが事務局から送られてきたのはまだ梅の蕾もかたい1990年の早春の頃でした。200頁にも及ぶこのコミュニケーションの基礎を、高い次元から具体的に説き明かした本を、私は何度も読み返し何処から手を着けようかとその作業手順に思

いを巡らせました。幸い従来のマニュアルの翻訳に携わられた新木昌子事務局長から貴重な助言を頂けたこと、また諸先輩が残して下さっている業績を活用させて頂けたことがマニュアルの翻訳を可能にしたことを思うと感謝の念に堪えません。

マニュアルは私達会員全員のものであり、そのため出来るだけ多くの人達に翻訳作業に参加して頂きたい気持ちと、翻訳部は教育資料、コミュニケーター、ITC本部から送られてくるオールクラブメーリングの翻訳で手一杯だったため、5月のリージョン大会の殆んどの時間を、私は翻訳をお手伝い頂く方の勧誘に費やしました。そして東は筑波から西は広島まで、まさにリージョン規模で素晴らしい特別委員会を結成することが出来ました。マニュアルの翻訳に参加頂けなかった方でもコミュニケーターの翻訳を申し出て下さった方々もあり、一つの大事業を媒介に素晴らしい人との出会いを嬉しく思いました。

マスターマニュアルは、課題、聴取法、スピーチ、一般、評価、付録の六部門より成り、指導力とコミュニケーション技術の向上を図るための基本的アプローチを筋道を通して具体的に提示している点では、従来のマニュアルと少しも変わりませんが、翻訳を進めていくうちにこの新しいマニュアルの誕生が、性別と国境の柵を取り除き、男女が又世界中の人々が共に学び自己啓発し合っていくための組織体としてITCが機能するために、必要不可欠であったことを伺い知ることが出来ました。議事録の実例はすべて男女両性に当てはめられるように記述され、議事の運営もその国情に合わせて臨機応変に対処するように繰り返し指導されています。ITCはもはや完全にトーストミストレスではなくなったのです。そして世の中のニーズに応じて、ITCの有益な訓練の成果が単に会員の間でのみ分かち合われるのではなく、広く私達のまわりで抵抗なくその真価が発揮できるように「適応」が強調されています。大学も企業も、もはや地域社会と遊離しては生存出来なくなっている現実を見ても、今回のマニュアルの改訂は非常に示唆的なものだったと思えてなりません。

お仕事の間に、ご子息を国立大学医学部に送り出された幸せなお母様の顔、お身内にご不幸があったにも拘らず難しい部分の翻訳を見事にこなして下さった頼もしい顔、学期が始まり行事に追われる前にと特急で原稿を送ってくださった先生の顔、完成した翻訳原稿に私をねぎらうメモを添えて下さった優しい仲間の顔、を想像してみました。一度もお会いしたことがないのに非常に親しい人のように感じます。これらの方々の協力なしにはとてもマスターマニュアル日本語訳の完成はなかったことでしょう。そして日本語に置き換えられたばかりのこの本を、会員皆様の方でより完成度の高いものに育てあげてくださる事を願って止みません。

第9回日本リージョン大会における、会則・常規の修正案及び決議案審議の結果報告

会則・決議委員会委員長 藤本博子

修正案 1 (会則第4条 財務 新たな項) 以下に置き換えられ可決

C項 日本リージョン基金： 日本リージョン基金は教育促進を目的とし記念寄付金、遺贈その他の寄付金で成り立つ。また、資料販売の純益も基金に入金されるものとする。基金の投資方針は金融機関の定期預金又は国債とする。元金は200万円とする。元金を減少させない限り、200万円を超過した基金を教育目的に限り使用することが許される。日本リージョン基金は役員会が管理する。

修正案 4 (会則第4条 財務 D項 経費) 可決 修正案1の可決によりE項となる

E項 経費： 役員、常任委員会及び事務局の経費、スピーチコンテスト優勝者補助金は予算で定められる。

修正案 5 (会則第5条 選挙及び役員の任務 C項 指名) 可決

2. 選挙の90日前までに、リージョン役員と指名委員会の候補の指名を提出するよう各クラブに要請する。役員と指名委員会の候補者として資格のある会員を積極的に探すことができる。

修正案 6 (会則第5条 選挙及び役員の任務 E項 選挙) 可決

3. 選挙は無記名投票で行われる。

修正案 9・10・11 (会則第5条 選挙及び役員の任務 H項 役員の任務) 可決

6. 会計は

- a. 銀行あるいは郵便局にリージョン名義の口座を設け、すべての資金を管理する。
- b. すべての収入及び支払いの記録をする。
- c. すべてのリージョンの基金を役員会の指示のもとに管理する。
- d. リージョンが負担すべき経費支払いのため、会長の連署を得て支払い伝票を発行する。
- e. 10月1日現在または以後必要のたびごとに会費未納のクラブに滞納通知書を送付する。
- f. リージョン役員会の監査のためにすべての帳簿記録が提出できるようにしておく。
- g. リージョン大会で財務報告をする。また要求があれば監査のために決算報告書を作成する。
- h. 会計年度末またはリージョン役員会の要請があれば会計監査のため帳簿と財務報告書を提出する。
- i. 予算・財務委員会の職権上の委員となる。
- j. 必要に応じてその他の任務を果たす。

修正案 13 (会則第6条 任命役員 A項) "事務局長"と"とする"の間に"(OFFICE MANAGER)"を挿入して可決

A項 このリージョンの任命役員は議会議法規役員、編集者及び事務局長（OFFICE MANAGER）とする。

修正案 14 （会則第6条 任命役員 B項 任命役員の任務）可決

3. 事務局長は役員会の指示のもとに出版委員会・資料委員会・翻訳委員会及び経理の管理を行う。

修正案 15 （会則第8条 役員会 新たな項）“役員会は”と“リージョン”の間に“年度始めに”を挿入し、また“会報”と“に掲載する”の間に“第1号”を挿入して可決

D項 役員会は年度始めにリージョンすべての監査済み年次決算報告書を承認し、それをリージョン会報第1号に掲載する。

修正案 16 （会則第9条 委員会とその任務 A項 常任委員会）可決

15. 資料 16. 翻訳

修正案 21 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務）“リージョン”と“予算案”の間に“及び事務局の”を挿入して可決

3. 予算・財務： 予算・財務委員会は次期会計年度のリージョン及び事務局の予算案を作成し、8月1日までに役員会に提出し承認を得、会報第1号に掲載する。

修正案 23 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 7 増設）可決

d. 経過をリージョン役員会に報告する。リージョン会長はそれを担当ディビジョン副会長に報告する。

修正案 24 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 13 出版）可決

d. リージョン会報を除く日本リージョンの教育資料の出版の任務にあたる。

修正案 25 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 13 出版）可決

f. 役員会の承認のもとに事務局長の管理下でこれらの業務を行う。

修正案 26 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 新たな項）可決

15. 資料：資料委員会は

a. ITC・日本リージョン資料及び物品の管理、維持、販売の任務にあたる。

b. 役員会の承認のもとに事務局長の管理下でこれらの業務を行う。

修正案 27 （会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 15 翻訳）可決

修正案26の可決によりB項16となる

16. 翻訳：翻訳委員会は

a. ITC資料の翻訳の任務にあたる。

b. 役員会の承認のもとに事務局長の管理下でこの業務を行う。

修正案 28 （常規 新たな項）文頭の“公式の”が削除され、“常規は”と“日本語”の間に“公式には”が挿入されて可決

1. 日本リージョン会則及び常規は、公式には日本語で記述される。

修正案 29 （常規 1 銀行預金）可決

全文削除

修正案 32 （常規 2 年会費）可決

2. 年会費： 年会費は会員1名につき4,000円とし、年4回発行されるリージョン会報代

及び I T C 日本事務局運営費を含むもので、7月31日までにクラブによって支払われるものとする。2月1日またはそれ以後入会した会員は年会費の半額を支払う。6月1日以後7月31日までに入会した会員は次年度の会費を納めるがその年度の会報は実費とする。

修正案 34 (常規3 旅費) “役員”と“の公式任務”の間に“及び委員長”を挿入して可決

3. 旅費: 役員及び委員長の公式任務に関する旅費は、新幹線及びその他の最低往復旅費が予算通り支払われるものとする。

修正案 36 (常規6 リージョン会報) 可決

6. リージョン会報: リージョン会報はリージョンの公式刊行物である。

a. 典拠 リージョン役員会が承認した会報編集方針を典拠とする。

b. 発行 年4回発行し、会員に配布する。

修正案 38 (常規7 I T C 日本事務局) 提出者が修正案(動議)を差し替え、更にc. 4) に修正案12の(1)(2)(3)を挿入して可決

7. I T C 日本リージョン事務局 (I T C JAPAN REGION OFFICE) :

a. 事務所は名古屋市東区葵3丁目25-20 ニューコーポ千種橋503号におく。

b. 目的: 会員のための事務業務を行う。

c. 次の業務をそれぞれの責任者の指示のもとに遂行する。

1) 教育資料及び物品の管理、販売

2) 出版

3) 翻訳

4) I T C 本部への送金

(1) クラブの要請に応じて I T C 本部への送金及び送金に伴う書類を処理し、毎年7月1日に I T C 年会費を取り扱う。

(2) 1985-86年度 I T C 国際役員会の認可に基づき、入会金20ドルの内5ドルを日本語教育マニュアルの印刷費として積み立てるために事務局口座に送金する。

(3) 毎月 I T C 資料の注文を扱う。

5) 事務局の経理

6) リージョンメールの発送

7) 会員名簿の印刷

8) その他、役員会が要請する業務

d. 事務局長 (OFFICE MANAGER) 及び経理担当者はリージョン役員会の承認を得て会長により任命される。任期は1年間とする。ただし継続して任命されることができる。他に事務処理のための事務員をおくことができる。

e. 運営費は日本リージョン通常会計からまかなわれる。

f. 経理担当者は I T C 日本リージョン事務局用に口座を設ける。

g. 運営費は、家賃、管理費、人件費、交通費、事務局に関する一切の活動費とする。

修正案 2. 3. 7. 8. 12. 18. 22. 30. 31. 35. は否決。17. 20. 33. 37. は提出者による取り下げ。

19. は、修正案 15. が可決されたことにより自動的に否決。

決議案 1. 2. 3. 4. は否決。5. 6. 7. は、時間ぎれのため審議されず。これらの決議案を審議するための継続会議が否決となり、次年度大会において審議するには再提出が必要となる。



I T C 議会法規役員 セルマ・マクレランド

Thelma J. McClelland
ITC Parliamentarian

As a visitor to a country other than any own I realize how important it is to be part of an organization named Internatiuonal Training in Communication.

It is difficult to make ourselves understood in another language—me to you, and you to me. Fortunately we have translators who do their best to convey exactly what we said and not what they assumed we meant by what we said. We owe them our thanks for this difficult task.

The first important step in communication is learning to listen. Hearing is done with the ears. Listening is done with thought. Understanding is done with feeling.

My best wishes to Japan Region for a wonderful Conference. My sincere thanks for the many courtesies extended to me and the opportunities I have had to speak with so many of you.

自分の国を出て、他国を訪問させて頂いて、私はインターナショナル・トレーニング・イン・コミュニケーションという組織の一員であるということが、如何に意義深いことがわかりました。

言語の異なる者同士が理解し合うということはむづかしいと思います。—私のことを皆様に理解して頂き、また、皆様方のことを私が理解するということが。

幸いにも、私達が実際に言ったことから判断して、多分こうであろうということではなく、私達が言ったことをそのまま伝えて下さることに努力を惜しまないで翻訳を引き受けて下さる方々がいらっしゃいます。これはたいへんむづかしい仕事ですので本当にありがたく思っております。

コミュニケーションにおいて大切な第一歩は、聴き取ることができるようになるということでしょう。ただ、聞くというのは耳で行われますが聴き取る時には頭を使います。また、理解するということは心で行われるでしょう。

日本リージョンが素晴らしい大会を持たれますことを祈っております。

私が滞日中に受けました数々のご好意や、皆様方の多くの方々と共に語り合う機会を与えて頂きましたことに心から御礼申し上げます。

セルマ・マクレランド様は5月2日に来日され、10日までご滞在。議事規則その他について日本リージョン会員に助言や指導をなさって下さいました。

I T C 本部への質問について

議会法規役員 野田 絢子

I T C 公式訪問者から次のようなコメントを頂きました。

メンバーまたはクラブが質問をしたい場合、普通はカウンスルへ質問を提出して、カウンスルで解決できればそこで解決し、もし解答が出せない場合は、リージョン役員会へ提出するのが順序です。もしリージョン役員会が判断できない場合には、I T C へ質問を送ります。但しその場合は、ディビジョンVI副会長へコピーを送ります。

日本から送られてきた殆んどの問題は、国内で解決のつくものであったと、I T C 役員会では判断をしています。

国際的な問題のみ直接 I T C 本部へ送ってもよいのですが、そのおりに手紙のコピー (C C) を上のレベルの会長にも送ることを原則とします。



The First Place Speech in English

Subject: Culture Shock

Title: A Baked Apple

Hiroko Fukumoto (Council No. 6, Nara Club)

What is a culture shock? Does it mean what Gulliver experienced on his travels? As all of you know, he must have had such a great impact when he awoke to find himself strongly fastened to the ground in the country Lilliput. He also perceived something on his breast a human creature not six inches high with a bow and arrow in his hand. This is, of course, a story by Jonathan Swift and it is telling rather unusual experiences, but we never know what will happen to us. The impact in facing a different culture! That is the culture shock. We always have to be prepared for the unexpected.

Gulliver stepped onto the unknown land because of the shipwreck and was to meet different peoples with different cultures! As for myself, not a shipwreck but my husband's sudden illness. It caused me a great culture shock. It was early in September, 1975 when we arrived in New York on our way to Providence R.I. where we were to stay for a year. Both of us were quite exhausted after two months' travel around the countries in Europe. When we got to our hotel, he had such a high fever and an acute stomach ache that he could not even walk. Luckily in that hotel was a doctor's office. So I rushed there to see the doctor. I was in a real panic! His secretary said that she could speak seven languages but Japanese. Firstly I asked the doctor how much he would charge me for coming to see my husband, because I had heard the medical care in the U.S. was terribly expensive. He smiled and told me that he would not charge more than thirty dollars. I was relieved. Then he came, examined him, and told me some difficult name of a disease, and said, "Come along with me to my office and I'll write out a prescription for some medicine. Take it to the chemist's around the corner outside the hotel and get the medicine for him." Can you imagine how shocking and scaring it was to go out at midnight in New York? I dare not! After all it ended up with giving a tip to a hotel boy for going out to the chemist's for me. The next morning the doctor suggested that the patient should eat something, perhaps a baked apple and hot tea. Can you believe the baked apple from the hotel kitchen was icy cold? How he wished to eat hot rice porridge!

Thanks to the kindly care of the doctor, he got well and we safely reached our destination and there we were welcomed by our host family with a huge carp streamer flying up in the sky in their garden instead of Stars and Stripes, and they furnished inside with Japanese screens, scrolls, Japanese lacquer ware and so on. There we witnessed a proof of their culture shock they themselves had experienced when they came to Japan and their remarkable absorption of our culture into their own.

An English poet Kipling once said, "East is East and West is West and never the twain shall meet." But now the world is shrinking. Japan has now great influence over the world, and vice versa. So we should be aware that we have responsibilities to gain the knowledge not only of our own culture but of others' as well. We should realize how important it is for us to see the world by learning through everyday experiences rather than simply talking about international contributions.

By understanding and appreciating manners, customs, and dispositions of other peoples, we are able to coexist with them and conversely, there may be convergence of different cultures.

Let's not be afraid of but confront a culture shock! The sudden exposure to a different culture does give you a strong but good impact.

☆☆☆
宝塚でITC大会
女性の国際的な教育・訓練機関、ITC(インタナショナル・トレーニング・イン・コミュニケーション)の日本リージョン大会が十二日、宝塚市梅野町の宝塚ホテルで始まった。全国から参加した約七百人が英語スピーチに耳を傾けた。写真、朗読技術などについて学んだ。
午前中の開会式に続いて開かれた英語スピーチコンテストでは、全国の地方ブロックから選ばれた五人が出場。夫婦での海外旅行で夫が発熱した時のホテルの対応で感じた文化の違い、ホームステイ先との交流など体験を踏まえた話が続き、内容や目録など三十項目にわたり採点された。
この後、セグリーブに分かれ、近ごろの日本語、朗読、議事運営法などをテーマに学んだ。
十三日は日本語スピーチコンテストなどがあり、閉会する。

(6月13日付
朝日新聞より)

英語の部 第1位要旨

論 題 カルチャーショック

題 目 焼きりんご

カウンスルNo.6 福本弘子(奈良クラブ)

“カルチャーショック”とは何でしょう。ガリバーが、船が難破して見知らぬ国に到着し、6インチばかりの人間に出会ったあの衝撃でしょうか。私自身について申しますと、難破のためではなくて、突然の主人の病気のために思いがけない経験をすることになったのです。1975年9月、長旅の後ニューヨークに着いた時、主人は高熱と腹痛で歩くこともできず、ホテルで医師の往診を受けることになったのです。すっかりパニックに陥っている私に、その医師は、処方箋を持って薬局へ行くようにと指示されました。真夜中のニューヨークで！ さて翌日、「何か食べたほうがいいですよ。焼きりんごに紅茶がいいでしょう」との医師のアドバイスで、ルームサービスで運び込まれた焼きりんごは氷のように冷たくて、患者をすっかり、がっかりさせてしまいました。しかし後に快復して、任地に着いた時、ホストファミリーの庭には、空高く鯉のぼりが泳ぎ、日本の屏風や掛軸で客間をしつらえて、歓迎して頂きました。そこに明らかな彼らのカルチャーショックと、文化の融合をみたのです。詩人Kiplingは「東は東、西は西」と述べていますが、世界は今や狭くなり、日本の世界に及ぼす影響は大きくなり、受ける影響も多大です。私たちは、多様な文化の知識を深め、日常生活の中から世界の国々に対する理解を深めて、共存していかなければなりません。また、そうすることにより、どこかで文化が融合するでしょう。“カルチャーショック”を恐れずに、立ち向かっていきましょう。きっと強烈な、しかし役に立つ衝撃を受けるでしょう。



福本さん世界大会へ
—ITC日本リージョン—

世界最大の組織をもつ国際的な教育機関、ITC（インターナショナル・トレーニン
グ・イン・コミュニケーション）の「ITC日本リージョ
ン大会」が十三日まで二日間

にわたり、兵庫・宝塚市の宝塚ホテルで行われた。今年で九回目を迎えた大会は、日本リージョン会長の広瀬忠子さんが開会宣言。その後、英語や日本語によるスピーチコンテストなどが続き、きのう午後五時半からの晩餐会には、三木眞一・兵庫県副知事、正司泰一郎・宝塚市長夫妻も訪れ、盛会だった。

英語のスピーチコンテストの優勝者の福本弘子さん（奈良クラブ）は、日本代表として、七月にアメリカのワシントンで開かれる世界大会に出場する。

ITC（本部・米カリフォルニア州アナハイム）は、国際的に通用するコミュニケーションについて勉強、それによって自己啓発をはかる非営利機関で、世界二十七カ国、会員数約一万人。日本には一九四九年に誕生している。

熱心に話を聴く会員ら
12日、宝塚市の宝塚ホテル

(6月14日付大阪新聞より)



論 題 育 む

題 目 豊 かな 心

カウンセル№7 加 藤 久美子 (鳥取クラブ)

皆様は「Jimmy Dark」ってご存じですか？ 私のペンネームではございません。山陰地方に住む人をさして言うのだそうです。

「地味で暗い」つまり「Jimmy Dark」です。私は生まれつきの山陰人。子供の頃から、お弁当を忘れても傘を忘れるなどと言われてきました。その上、冬は晴れる日が少なく、空はどんよりと曇って雪も結構よく降ります。多分、このような気候風土の中で育まれてきた性格なのでしょう。しかし反面、真面目で粘り強く責任感が強いとも言われています。山陰の人々が自慢できるのは自然の美しさです。先日、東京から鳥取空港に降りた時、空気が美味しくて思わず深呼吸をしてしまいました。私は山陰の自然の中で、感動を持ち続けることのできる豊かな心を育てていきたいと思っています。

さて、私の住んでいる近辺には白鷺がよく遊んでいます。ご存じのように白くて姿がよくとてもきれいな鳥です。それに比べて鳥は気の毒なほど姿が悪く、色も不気味できたない鳥だなあと感じていました。ところがこの固定観念ががらりと変わる出来事があったのです。ある冬の日、二三日雪が降り続いた後、まぶしいばかりに晴れ上りました。あたり一面銀世界です。よく見ると、田んぼの雪の上に白鷺が三羽と鳥が二羽、懸命に餌をさがしているのです。不思議なことに、どう見ても鳥の方がきれいなのです。輝く雪の上では白鷺の白い羽の色は、うす汚れて見えるのです。あこがれの長い足はズボズボと雪に埋まって痛々しいばかりです。反対に鳥は短い足を平気で動かしモンローウォークで愛嬌たっぷりです。黒くて艶のある羽は、これこそ濡羽色、光ってさえ見えます。鳥がこんなに美しい鳥だということに、はじめて気が付きました。「最も美しいものは、あなたの面前にある。つまり、あなたが最もよく知っているものがそれである」これはロダンの言葉だそうです。身近なものは見過ごしやすいものですね。向かい合う時間を、それにかけることで、何か大切なことを伝えてくれます。

白鷺はスマートな都会人？ 鳥は冴えない山陰人でしょうか？ 世の中、全部が白鷺でも、あるいは全部が鳥でも全く面白くありませんね。お互いにそれぞれの個性を大切に、尊重し合う豊かな心を持ちたいものです。

ところで、最近、短歌という雑誌に平野宣紀さんという男性の次のような作品が載っていました。「価値観も既に大きく変はりつつ 人間廃棄物か我のごときは」 これを読んで、まあお気の毒にと思うだけでよいのでしょうか。終戦をさかいに価値観がすっかり変わったと言われます。日本人はあまりに、ものに価値を置き過ぎたため、精神主義から「万事この世はお金次第」という物質本位の拝物主義に転落したとも言われます。

私が小学校に入学したのは昭和18年、当時は国民学校一年生と言いました。希望に胸をふくらま

せた新入生達の背負っているランドセルも筆箱もみな馬糞紙から出来ていました。通学の途中、道路にゴロゴロ落ちている馬糞を指さして友達が言いました。

「私たちのランドセルは、これを洗って干して作ってあるのよ。」「半信半疑」という言葉を聞くと、いつもこの時を思い出します。そして戦後の何も無いところから出発した日本は、こんなに豊かな国になりました。ヘンゼルとグレーテルのお話に出てくるお菓子の家や、きれいなセルロイドの筆箱にあこがれたのがまるで夢のようです。しかし、これだけものが豊富になり、幸せになった筈なのに、簡単に人が殺される世の中にもなりました。逆に心の貧しさが指摘されるのは、大変さびしいことです。豊かな心は、どこへ行ったのでしょうか。

日本人は今、立ち止まって考え直す時期に来ていると思われませんか？ 思いやりや心のゆとりを取りもどしたいものです。

又、親として、礼儀やルール、感謝する気持、もの大切さや命の尊さを、子供たちに教えなければなりません。今日の生活は過去の人類のたまものです。後に続く子供たちが大自然の恵みを受けることができるように、もうこれ以上、自然を破壊することは許されないと思います。

さあ、皆様、明るい未来に向かって、感動を持ち続けることのできる豊かな心を育てていこうではありませんか。

英語の部 第2位

カウンスルNo 8 近内 妙子(千葉クラブ)

Subject: Time Capsule

Title: What is Your Message

日本語の部 第2位

カウンスルNo 4 秋岡 京子(大分クラブ)

論題: 顔

題目: 笑顔はコミュニケーション

I T C インフォメーション

ITC Information

公式訪問者 I T C書記-会計 ルビー・ムーン

1. I T C会則への修正案については各クラブに配布してあります。
派遣員をださないクラブも役員選挙の投票はしてほしい。
2. I T C大会の無料旅行券の制度は今回で終わります。
3. ライティングコンテストの件は、自国語のコンテストをしているところもあります。
4. 来期からスピーチコンテストの規則が新しくなります。
 - a. どのレベルでもジャッジは3名でよい。
 - b. コンテストでは3位まで表彰する。
 - c. クラブ、カウンスル、リージョン、I T C大会での予選では、今まで通り5分-8分の用意されたスピーチを行う。
 - d. I T C大会での決勝の時は、ドアのところで与えられた題のスピーチを演台に進むまでにつくる。時間による失格はない。減点方法で減点される。
5. I T Cでたくさんの物品を作りましたのでコミュニケーターでご覧下さい。
6. I T C事務局長のブライアントさんは、このリージョン大会の出席者数を聞いて喜ばれました。インナーサークルのピンを預かってきました。
7. 皆様がI T Cの活動を楽しまれるように願っています。

— 要 旨 —

リージョン大会写真集



日本リージョン会長入場



会員代表挨拶



クラブ入場

大会テーマ



I T C 公式訪問者



開 会 式



英語の部

スピーチコンテスト出場者 日本語の部



ペー ジ



資料販売



ワークショップ



アメリカ副総領事
ピーター・ブラファ様



兵庫県副知事
三木 真一 様



宝塚市長
正司 泰一郎 様



次期会長



役員就任式



晩餐会・乾杯



表彰



エンターテインメント



テーマと花=各カウンスル会長色紙



次回は大阪へ



大会コーディネーター挨拶



気高く
知的にして優美
みずみずしく — 純潔なる、白百合



No. 1



No. 2

土壌により花の色は様々
完成された美 個々の花々
まとまって華やかに — こうべをあげて、紫陽花

常に変わらずして心なごみ
簡素にして飾ることなし
緑濃い憩いの木陰 — 香りたかき、月桂樹



No. 3



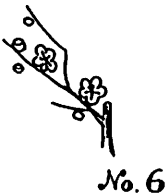
No. 4

明るく情熱的に
楽しく行動的に
力づく歩む — 太陽に向かって咲く、ひまわり

いかにも元気
いかにも素直
いかにも率直 — さわやかに、麦畑の麦の穂



No. 5



No. 6

若き蕾よく
開花して無論美し
春にさきがけて凛と咲く — 都人の好みし、梅花

一花にても主役
取り合わせても調和の美
根をはり増えて育つ — しっとり、初夏の茶花



No. 7



No. 8

内に秘めたる実力と
大いなる可能性と
豊かなるビタミンと — 長じては すすしろともなる、かわわれ

晩餐会のおりのインタビューで各カウンスル会長が自カウンスルを花にたとえられた言葉をまとめました。

表 彰

Awards

1. 20年継続正会員

三木艶子、渡辺百合、横山幸子、野田絢子（以上阪神クラブ）

2. フルメンバークラブ（30名）

カウンスルNo.1 葵、名城、東山、ぎふ

カウンスルNo.6 京都、平安、都

カウンスルNo.3 姫路、しらさぎ

カウンスルNo.7 鳥取

カウンスルNo.4 福山、岡山、岡山あくら

カウンスルNo.8 東京

カウンスルNo.5 大阪、豊中、南大阪、堺東

3. 所属クラブの平均最多会員数のカウンスル

カウンスルNo.7 ……7クラブ平均 28.14名

カウンスルNo.6 ……6クラブ平均 28名

4. クラブ増設最多カウンスル

カウンスルNo.1

5. 資格認証課程最多得点クラブ

1位 米子クラブ、 2位 都クラブ、 3位 名古屋クラブ

ITC 日本リージョン第10期選出役員

Japan Region Officers

テーマ “理と真と”

Theme: "Ideal and Sincerity"



会 長 常 田 道 子(京都クラブ)

第二副会長 鶴 飼 恵津子(名古屋クラブ)

次期会長 星 野 佐 登(葵クラブ)

書 記 佐 山 昌 子(岡山クラブ)

第一副会長 木 下 あつ子(大阪クラブ)

会 計 古 澤 由 紀(浜松クラブ)

謝 礼 決 議

Courtesy Resolution

1991年8月12日-13日、兵庫県宝塚市宝塚ホテルでのITC日本リージョン第9回年次大会に集まった会員は、非常に有意義な会合を持ち、そのうえ

この大会の成功は、綿密な計画、心温まる接待、準備とプログラムに携わった方々の長時間にわたる献身的な奉仕のおかげであるが故に、

ITC日本リージョンは1991年8月13日のこの日、すべてのプログラム参加者、教育セッションのリーダー、スピーチコンテストのジャッジ、エンターテインメントの方々、宝塚ホテルのスタッフの方々、その他協力して下さった関係者に対し心からの謝意を表すこと、を決議します。さらに

ITC日本リージョン会員は、カウンスルNo.3とその所属クラブ、大会準備委員会、そして、とりわけ責任を担ってすべてをとりしきった日本リージョン会長広瀬忠子さんに対し、起立表決で感謝を表すこと、を決議いたします。

ITC日本リージョン会則・決議委員会委員長 藤本博子

決議は全員起立で採択され、盛大な拍手がおくられました。

大会コーディネーター謝辞

コーディネーター 杉山満佐子

コ・コーディネーター 江藤万里子

宝塚での第9回リージョン大会は、国際役員ルビー・ムーン様をお迎えし、700余名もの大勢のご出席をえて無事終了いたしました。これも一重に皆様方のご協力のおかげと存じます。

ご参加下さいました皆様方には初めての地、宝塚ホテルでの大会にどのような印象をお持ちでしたでしょうか。不行き届きな点もございましたでしょうか、カウンスルNo.3の準備委員会一同は、日頃の訓練を生かして精一杯のお世話をさせて頂きました。

閉会にさいしての謝礼決議に、皆様方の起立、盛大な拍手を耳にし感無量の喜びを味わいました。何よりの評価を頂きましたものと心より感謝申し上げます。

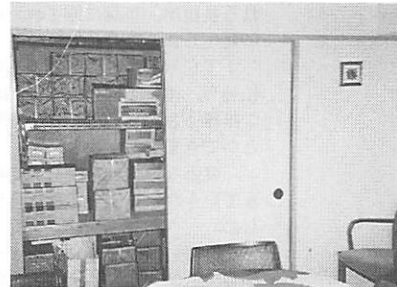
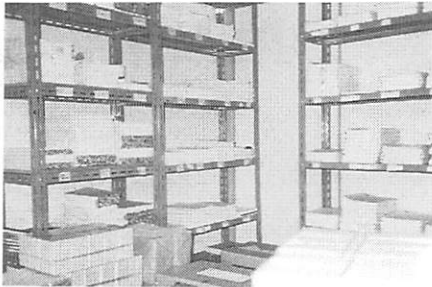
ご参加下さいました会員の皆様方、本当にありがとうございました。

出版メモから

出版委員長 徳橋 八重子

'90. 9. 14 翻訳委員長加藤啓子さんが関西から出席され、事務局長を中心に、資料、特別会計、出版の各委員と事務局お手伝いの新メンバーが集まり、今期の事務局機構について話し合う。

'91. 1. 11 事務局資料室に棚をふやした。資料の種類がふえ、整理しにくくなっていたが、新しい棚を加えて資料に通し番号をはったので、以前よりずっと見やすくなった。



事務用品が入荷した時には6畳の資料室が一杯になります

'91. 5. 3 滞日中のITC議会法規役員マクレランド様が4日に事務局を訪問されるとのこと。8日の予定であったのが急に変更になったので慌てた。連休なので事務局長の新木さんは家族と旅行中。事務局お手伝いの澤登さんは留守。ちょうど家にいたメンバー3人で準備するより仕方がない。マクレランド様は特に事務局見学を希望していらっしゃると思っていた。

資料の杉山さんは掃除を受け持ち、特別会計の竹内さんと徳橋がお花を活けることになった。お花は芍薬、撫子とあやめが庭に咲いていたので持ってきた籠に活けた。掃除をしたあと、「事務局とは思えないほどきれいになったわね」と思わず私達の口から出た。

日本リージョン発行のすべての資料は、平素から3つのクリアブックにファイルされている。それをご覧頂くようにテーブルの上に並べて、すべての準備は完了。

マクレランド様は事務局が大きなお仕事をしていると感激して下さいました。

'91. 6. 1 今期の事務局メンバーは、週に一度事務局に来て整理、点検、資料発送などを行った。出版は新版、再版、改訂と合わせて33種類を取り扱った。これらの校正、印刷所との交渉と力足りず苦勞もしたが、忙しくても楽しい一年だった。

ご指導、ご協力下さった方々の大きな力に心から感謝いたします。



おめでとうございます

INTERNATIONAL

ぎふクラブ会長

林 孝子

緑に彩られた金華山、豊かに流れる長良川、自然に囲まれた岐阜に誕生しました。

ITCって？ 何もわからない私達を、増設委員の方々が無心にご指導下さいまして、芽を出すことができました。

二度とない人生だから大切に生きていきたい。ITCに出会いました。

「出会い ふれあい」をテーマにして一期一会の心を持ち、学んでいきたいと思えます。

花をささえる枝、枝をささえる幹、幹をささえる根……、このような言葉がありますが、私達も今は根っ子をしっかり育てていきたいと考えています。

先輩の皆様、ご指導下さいませようお願いいたします。

3月16日認証 No.3516



千種クラブ会長

鈴木 宏子

この度、名古屋に7番目の、英語クラブとして誕生いたしました。

1988-1989年鈴木宏子が日本リージョン会長の時、日本でITC大会開催の立候補をしてはどうかという構想ができましたが、叶いませんでした。けれども、21世紀になり関西国際空港や中部国際空港が誕生するころには、それも夢ではなくなるかもしれません。

また、若い人々の多くが海外留学を経験なさりながら家庭にはいると英語を話すチャンスもなく宝の持ちぐされとなっています。

そのような理由から生れた、平均年齢30才の若々しい会員ばかりのクラブです。

今期から2つのクラブに属することができるようになり、増設を担当した私と名城クラブの山寺章子さんも会員になりました。

あたたかいご声援をお願いいたします。

6月10日認証 No.3530

カウンスルNo.1増設委員長 鈴木 宏子

今期カウンスルNo.1では2つのクラブが誕生いたしました。

岐阜は長良川を望む金華山に要塞堅固な城があり、風光明媚なこと、古代絵巻見るがごとし、ですが、そこに住む人々は進取の気性に富んでおられます。この土地にITCのクラブがなかったのが不思議でした。男性会員3名を含む30名の活発な会員達の今後の活躍が期待されます。

千種クラブは誕生までに2年かかりました。会員の多くは子育ての真っ最中という若い会員ばかりで、もう少し手がかからなくなったらITCで社会で活躍して下さるでしょう。自由に時間が持てないで悩んでいる彼女達は一カ月一度の例会を何よりも楽しみにしています。21世紀のリージョン大会では通訳としても働いて下さることを保障いたします。

ぎふクラブ・千種クラブ・琵琶湖クラブ・韭崎クラブ

TRAINING IN COMMUNICATION

琵琶湖クラブ会長

目片 ミヨ子

美しい伝説と歴史の香りに満ちた湖国。素朴な中に古社寺や仏像が静かに息づいて現代の滋賀県にマッチしています。私達は周囲の人達に何らかの形で刺激を受け、良くも悪くも影響されて生活をしています。

今期のテーマとして「邂逅」を選びました。限りある一生の間のある時期にめぐり会える人達。邂逅のあるところ歓喜があります。

これからは、精神衛生面が大きなウエイトをしめるものと思われれます。I T Cの教育の4つの目的に向かい、私達琵琶湖クラブ会員は先輩の皆様に一歩でも近付けるよう、邁進したいと願っています。

「花発けば風雨多く、人生別離足し」の如く、様々なことに遭遇するかも知れませんが、皆様、よろしくご指導下さい。

6月1日認証 No 3 5 2 8



韭崎クラブ会長

飯野 志津子

雨に洗われた山々の美しさが、神々しくさえ感じられるこの韭崎のまちに、このたびI T C 韭崎クラブが正式に発足することとなりました。

宝塚のリージョン大会会場から後藤侗奈増設委員長が、I T Cからの認証の知らせを、弾んだ声で電話して下さり感激いたしました。

人口約3万人、山梨県の北西に位置する小都市で、昼間はそれぞれが家業に励み、あるいは子育てをしながら勤めをしている方の多いクラブですが、I T C会員になって学ぼうとする意欲は人一倍強い方ばかりです。

覚束ない足取りですが、先輩の皆様方のご指導を頂きながら、羽ばたきたいと思います。増設委員の皆様方に心から感謝申し上げます。

6月1日認証 No 3 5 2 9

カウンスルNo.6 増設委員長 野村 美智子

1,300万人の水源である琵琶湖のほとり、大津市に長年の夢であったクラブが誕生しました。湖の稚鮎が、解禁の6月には若鮎に育つように、27名のメンバーも「琵琶湖クラブ」の名称で、認証式を迎えるまでに成長しました。充分な可能性を秘めた若鮎達は、I T Cという清流に向かって、試行錯誤を繰り返しながら遡上して行くでしょう。

お互いを認め合い、学習し、高め合う。湖をとりまく豊かな自然を守るなかで、楽しく、クラブを育みながら、前進して行かれますように期待いたしております。

カウンスルNo.8 増設委員長 後藤 侗奈

シェラネバダリージョンの喜恵子・ウィタカさんが、I T Cの種を韭崎市に蒔いてから5年。やっと実り、韭崎クラブが誕生しました。メンバー21名はほとんどが有職者で、例会は夜間19時から21時までです。

韭崎駅前に立つと、丘陵地には果樹園が広がり、その向こうには南アルプスの山々が見えます。人情味、果物の味の豊かなこと天下一品。役員会のお茶受けに出てくるお手製の漬物の美味しさ。そして会議の後の温泉。増設に携わった者達は宿泊を余儀なくされ大変でしたが、こんな楽しみもあり、今日を迎えることができました。

ちょっと大人のクラブに

カウンスル№1 名城クラブ会長 葛谷 美紀子

今期のテーマ、“心の成熟”は、メンバー個々の成長によってクラブの質を高めたいという願いの表れです。

そこで、まず、役員、委員会の役割分担をはっきりさせました。これには、カウンスル№1が行ったクラブ運営研修会が大いに役立ちました。というのも、参加した役員と、資格認証、会則・決議、儀典、広報、スピーチコンテストの各委員会に強い責任感が生まれたのです。そしてこれが、初のクラブ会則発行、資格認証コースⅡのテストへの初挑戦と繋がりました。予算・財務も年度半ばで、予算の見直しをし、3人のニューメンバーを迎えた会員、教育の両委員会は、大忙しでした。おかげさまで、フルメンバー達成です。プログラム委員会も、初の試みで、年間テーマ“法律と遊ぶ”を、打ち出しました。これによって、プログラム参加者に、心づもりができ、リーダーとの打ち合わせが、スムーズに行われました。

退屈しない刺激的なビジネスと、有意義なプログラムを目指した今期もあかわらずか、今、クラブの中は、対等で、明るい空気がいっぱいです。

イースト神戸クラブよ、永遠に

カウンスル№2 イースト神戸クラブ会長 今井 京子

今年の例会の成功の一因はプログラムの良さにあると思います。今期のテーマ「今一步の前進」のもと、毎月「__に今一步の前進」と題して教育、プログラム、トピックの統一を計ります。

5月は「向上への今一步の前進」をテーマに教育は「討論の種類」、プログラムはその中から「ラウンドテーブルディスカッション」、題目は「ITCから何を学んだか?」、トピックは母の日にちなみ「有名人の母」となり、フセイン、ライサ夫人、貴花田などの幼い時を語りました。

役員会で簡単に打ち合わせをするのみですが、会員ののみ込みが良く、意図するところを遥かに越える、ユーモアに満ちたスケールの大きな会となります。英語は勿論、白熱の日本語スピーチコンテスト、お客様28名を迎えてザイール人テンボ氏による講演会「アフリカ黒人社会」、書評とストーリーテリングで一つの題材に2ヶ月にわたり取り組むなどグローバル、グレード高くをめざしました。

更に、会の成功の大きな要因は、一言でいえばクラブの雰囲気の良いさにあります。なにしろ全員が一つにまとまり、皆が自由に意見を述べます。英語クラブのためか、敬語を使う必要がなく全員が平等。失敗してもすぐ誰かのフォローがあり安心。是は是、非は非と会則にのっとり、非常にフェア。有能な会員がリージョン、カウンスルでどんどん活躍する明るい、おらかなクラブです。皆、学生時代のノリで楽しくやっています。

この絶好調、イースト神戸がいつまでも、いつまでも続きますように。

“チームワークで頑張ってる” います

カウンスル№3 舞子クラブ会長 山本光子

今秋5周年を迎えますが一年目にフルメンバーから6名に減るという大きな試練がありました。けれどもリージョンやカウンスルの皆様が、例会毎にゲストとして大勢出席し、役割を分担して助けて下さいました。教育マニュアルや役員マニュアルを繰り返し読むことも教えて頂き、そのおかげで危機を乗り越えることができました。本当に有難うございました。現在では会員数も20名に増え、舞子クラブらしさも生れつつあるように思われます。

そこで、リージョン会報第3号のITC国際会長ライトフット様の「チームワークで頑張りましょう」のメッセージにそって、舞子クラブをご紹介します。

相互依存……お互いの知識と技術を信頼し、認め合い、譲り合い、助け合っています。

例会は刺戟…自分の能力以上のことを要求されても、誰かの助言を受けると何とかやり遂げてまいります。個性を生かす配役の妙を心得ている第一副会長が大きく貢献しています。

楽しい例会…メンバー全員の願いです。ユーモアに溢れ、いつも笑いが絶えません。今、役員交代式の準備に各自が責任を持って努力しています。連帯感がきつと喜びに結びつくことでしょう。

ライトフット様のメッセージは、私達に更に意欲を与えて下さいました。クラブの中だけでなくITCの一員として、良い影響を与え合い頑張ってるゆきたいと思えます。

5年の節目を充実して

カウンスル№4 岡山クラブ会長 黒住祥重

岡山クラブは今期5周年を迎え4月に記念例会を持ちました。チャーターメンバー25人がそのまま残り、5年間フルメンバーであることがクラブの誇りですが、これからも一層会員同士の和を大切にしていきたいと思い、5周年記念例会を出来るだけ楽しく充実したものにと心掛けました。次の日の親睦バス旅行は例会にも増して楽しく、ITCの勉強が少々苦しくても頑張ろう、こんなに素晴らしい仲間達と一緒にのだからとお互いに再確認しあったことでした。

私達のクラブではプログラムと資格認証の委員会がタイアップして、順番に平等に役割を決めていきます。そのため今年のスピーチコンテストには79才のチャーター会長が出演し、その上クラブの代表にもなりました。また今期15名がコースIを取得しましたので、次のコースIIの試験に全員合格したいと勉強会を持ちましたが、今期から例会の度に少しずつクラブ会則を朗読し、会則に親しんで来たことが、大いに役に立ったように思いました。

岡山クラブの常規が改正できたことも節目の年として喜ばしいことでした。

カウンスル例会のホステスクラブをして

カウンスル№5 千里クラブ会長 橋本伶子

「次は千里クラブですよ。よろしくね」とカウンスル旗を渡されてしっかり受け取った。上のレベルの大きな仕事に、初挑戦である。クラブ会員一同は新鮮な気持ちで、目で、始動を待っている。

成功させる為には。無駄な動きを少しでも少なく。皆の力がその日に最高に出せるように。誠実で思慮深い役員の方々に、呉々も力添えを頼む。「やるわよ」と言う同意の眼差しが頼もしく嬉しい。

うまくやれなくても「心をこめて」「最高の笑顔で」これでいきましょうよとクラブ会員一同意志統一する。

さて、基本から、ルールから、はずれないように具体的にどうすればよいのか。実に見事なカウンスル会長始め役員の方々からの細やかで親切な指導、前ホステスクラブからの的確な引き継ぎ指示事項によりコーディネーターのもとにクラブ会員全員が積極的に役を果たしていく。カウンスルとの前向きな接触がぐんぐんクラブをひっぱってゆく。

全員で力を合わせてやり終えたあとの爽快感と充実感は、「識る喜び 行う楽しみ」をまさに実践した者のみが得るハイレベルの共感となった。

I T Cの本質は教育団体であるとの理解認識が各会員の中に根付いてきて、やる気・向上への姿勢が芽生えてきた。来期は3年目、クラブはいい方向へ成長、進歩していくでしょう。

楽しく自己啓発

カウンスル№6 奈良クラブ会長 下西 曜子

何をするにも楽しくなければ継続することは難しいと思います。例会を楽しく、というのが私達今期役員の希望でした。「三人寄れば文殊の智慧」、まして30人も寄れば知恵も10倍にふくらみま。毎月のプログラムも、ゲーム感覚を取り入れた議事法教育、高齢化社会に備えて老人福祉デイセンター見学、深い感動のクリスマスコンサート、少し辛口の講演「日本の女性達」― 講師、周学軍さん―、レクシコロジー、ディベイトと盛りだくさんでした。

カウンスル例会では広報、ポスター、儀典、スピーチコンテストと様々なコンテストが行われ参加しましたが、中でもスピーチコンテストには英語と日本語の両部門に挑戦しました。英語の部は1位に、日本語の部は2位になり、たいへん誇らしいことでした。*

以前から、スピーチコンテストは会員以外の方々にも感動を与えるプログラムではないかと考えていました。そこで、クラブのスピーチコンテストには大勢のお客様をお招きし、好評をえました。思わぬところでI T Cの広報活動にもなりました。

少々難しい課題であっても楽しみながら取り組めば、こなすことができるものです。

“楽しく自己啓発”、これが今期奈良クラブの基本姿勢でした。

*日本リージョンスピーチコンテスト英語の部では、堂々第1位の栄誉に輝かれました(P.20)。

次はI T C大会での挑戦です。

記録を活かす

カウンスル№7 鳥取クラブ会長 西尾 琉璃子

クラブが充実向上するには、会員相互の協力と友情の絆が強いことが必要条件であると思います。鳥取クラブは会員の自覚と努力によって、協力と友情の輪が強力なものになっていたことが幸いでした。これを土台にして、充実に向けてプラスの作用をしたと考えられることを挙げてみます。

1. クラブに関する任務やしごとの内容について再検討し、会員の時間や経費の省力化をはかり、その見返りで内容の充実をはかったこと。

2. 会員のプログラムに対する課題参加の状況のデータ(過去3年間)を作成し、計画的なプログラム参加に努力したこと。

3. このデータを参考にして、クラブとして取り組む必要のある課題や、新しい課題について検討し、その課題に会員が積極的に参加したこと。

4. 少数の達人を得るより、質的に格差の小さい会員保持を願い、新入会員の教育、その他地道な努力をしたこと。

以上4点が考えられ設立10年を迎えた節目に、寄稿できますことを嬉しく思います。

日本リージョンスピーチコンテスト日本語の部(P.22)では、鳥取クラブの会員が優勝なさいました。

新しいカウンスルの中で

カウンスル№8 千葉クラブ会長 金子 維 美

クラブの設立は1987年11月、プログラムも一通りのことはやり終える時期に入っています。

今期、関東地区ではじめてのカウンスルとして№8が発足し、地理的にも近くなりました。その結果、多くのメンバーがカウンスルと直接関わるようになりました。前向きの活動方針から多くのことを学んでいます。

クラブでは、マニュアルにそった訓練は勿論のこと、外部から講師を招いての勉強や、学んだことを基礎にして地域社会との交流を心がけています。またカウンスルで、例会の曜日、形式などに新しい試みを取り入れていることも参考にしたいところです。

「識る喜び」を味わうことは、比較的簡単ですが、楽しんで「行う」ことは、難しいものです。義務として行っている限り、楽しみを味わうことは出来ません。もっと積極的に、楽しんで「行う」ことを今後の課題にしたいと思います。

日本リージョン今期の目標のひとつに“内容の充実”があげられています。「若いクラブはITC訓練の基本をよく学び、ルールに則って運営する。歴史あるクラブはその伝統を見直したり、柔軟性を以って最新の教育を取り入れるなど、それぞれのクラブにあわせて新たな成長のために、今年は内容の充実に重点を置き基礎固めをする」というものでした。

各カウンスルから一つずつのクラブの充実ぶりを書いて頂きました。

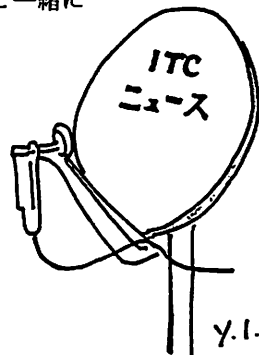
“コミュニケーション・シンフォニー”へのお誘い
1991 - 1992 ITC会長アニタ・ヘンツラーと一緒に

年 月：1991年10月19日(土)

場 所：グラス フォートワース、ヒルトンコンファレンスセンター

内 容：トレーニング、エンターテインメント、親睦、お遊び
食事 — そしてテキサス式おもてなし

目 的：皆様に、エレガントで、教育的で向上のための経験
をしていただくために



ITCならではの形式で行われますイベントにぜひご出席下さい。そのためにも今から節約をして、グラスでの楽しい週末のための経費にそなえて下さい。当地までの交通費は別にして“コミュニケーション・シンフォニー”の会費は全部で40ドルです。もしすべての行事に出席できない場合、セミナーのみが27ドル50セント、レセプションのみが15ドルとなっております。

さらに詳しいことは次回お知らせ致します。ぜひ、参加の計画をたてて下さいますように！

レッドリバーリージョン カウンスル№2 レセプション広報委員会

新たな日のはじまりに

読み人しらず

今日という日は神よりの授かりもの
無駄にも有意義にも自由に費やせるようにと
神が授けて下さったもの
今日の行いは私にとって大切なもの
私の人生の一日を
その代償にするのですから —

明日が来れば今日という日は永遠に消え
代わりに何かが残される
それが無益でなく有益で
悪ではなく善であり
挫折ではなく成功であるように

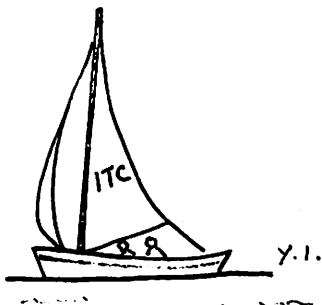
今日という日は神よりの授かりもの

三 宮 晶 子 (阪神クラブ)

リージョン会報 Vol. 9、4冊の発行を終えるにあたり、あらためて、リージョン大会のクロージングソートをお届けします。

編 集 後 記

- はなやかな夢を見ていたような宝塚での大会も幕をおろし、会報も今期最終号となりました。
- 会報編集に携わってこの一年、多くのものを得た中で一番うれしかったことは、東は筑波から西は大分まで、日本リージョンの多くの会員の方々の、知性あふれる温かなお人柄に親しくふれさせて頂けたことでした。これはITCからの素晴らしい“贈り物”であったと思っています。
- やさしく優雅なスピーチだけではなく、行き届いたデスクワークをなさって下さる、おおらかな会長のもとで、私達編集部一同はのびのびと楽しく、しかし、真剣に編集に取り組むことができました。本来の編集作業の他にも、私達は会報をよりよいものにするため、時に応じて、大は、世界的規模の事柄から、小は、たった一字の助詞 — これも結構大きなテーマですけれども — に至るまで、熱心に考えるところを述べ合い、お互いに納得がゆくまで討論を繰り返しました。あの熱気は誌面に反映していたでしょうか。
- カットは全号を通してお一人の方のペンで、というのが当初からの願いでした。その願いは叶えられ、こちらの思い描くイメージを、品のよい、のびやかに愛らしい絵にして、各号を飾って頂くことができました。あちらこちらからファンの方々のお褒めの声も寄せられています。
- 翻訳委員長はじめ委員の方々は、誠実にITCコミュニケーターの翻訳をなさって下さいました。そして、それとともに、ワープロタイピングを黙々と二年間続けて下さった“縁の下の力持ち”が、日本リージョンの第3期会長でいらっしゃるということも、私達の誇りとするところです。
- 印刷所インタイプセンター工東様の、専門家としてのお力添えを頂くことがなければ、私達はもっと苦勞していたでしょうし、出来上がりも異なったものになってしまったことでしょう。
- 会報をお読み下さり、さまざまご協力を下さった皆様方に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



編 集 者 村上美耶子 (関西クラブ)
スタッフ 藤原 栄子 (六甲クラブ)
長縄智恵子 (関西クラブ)
杉山満佐子 (関西クラブ)
カ ッ ト 井上 保子 (阪神クラブ)

『ITCコミュニケーター翻訳別冊』
タイピング 菊池 悦子 (阪神クラブ)

印刷所：(株)インタイプセンター (大阪)

